

琉球大学学術リポジトリ

教職大学院の施設紹介

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2017-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36910

教職大学院の施設紹介

琉球大学大学院教育学研究科に専門職学位課程として高度教職実践専攻（以下「教職大学院」という）を設置するに際し、人文社会総合研究棟（通称 文系総合研究棟、以下「文総」という）の3階を改修した。

改修工事は、（１）文総 301 教育学研究科院生研究室（305 m²）の全面改修と、（２）文総 305 及び文総 306 の演習室（小）、文総 307 の資料室並びにラウンジ（図1）を改修して、教職大学院専用教室2室（文総 305 カンファレンスルーム（124 m²）、文総 306 リフレクシヨングルーム（69 m²））へ整備すること（図2）からなり、平成 27 年 6 月から平成 28 年 3 月にかけて行われた。

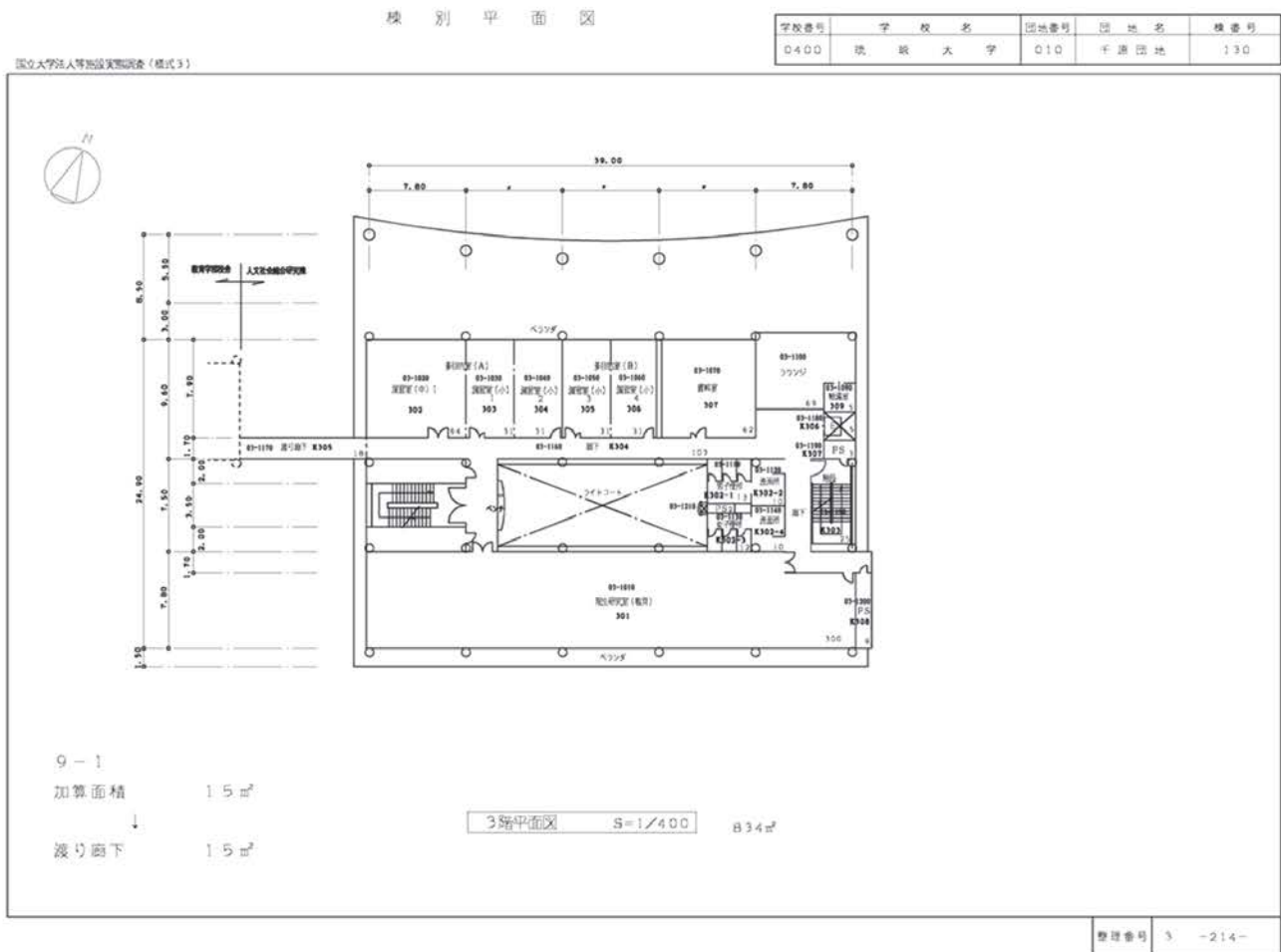


図 1 改修前の文総3階平面図

棟別平面図

学校番号	学校名	所在地番号	所在地名	棟番号
0400	琉球大学	010	千原田地	130

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

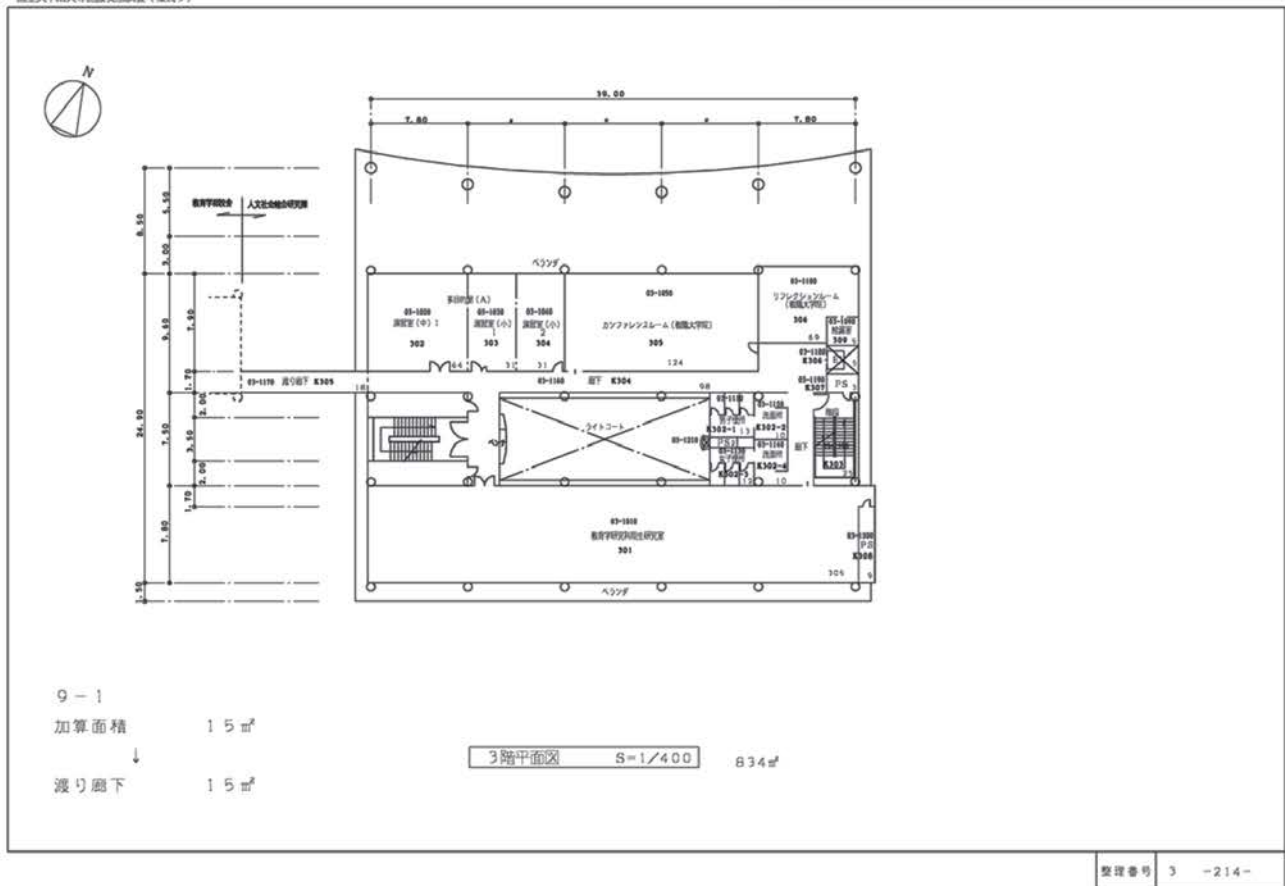


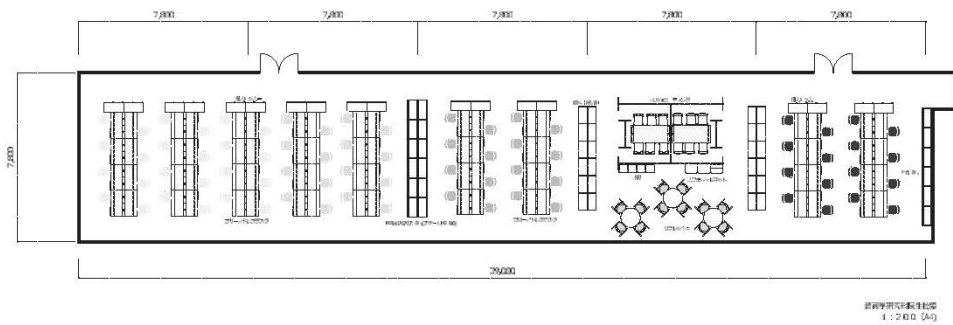
図2 改修後の文総3階平面図

一連の整備にかかった費用は以下の通りである。

文総 301, 305, 306 の改修工事費	15,063,732 円
文総 301, 305, 306 の什器等購入費	8,587,688 円
文総 301, 305, 306 の備品整備費	5,654,058 円
教科書・教師用指導書購入費	7,204,579 円
院生用パーソナルコンピュータリース (59ヶ月)	8,920,800 円

(1) 文総 301 教育学研究科院生研究室の改修

教育学院生研究室の改修は、第三期中期目標・中期計画期間中に実施される大学院修士課程の再編に伴い教育学研究科から修士課程が廃止されることを念頭に、2つの課程が当面棲み分けながらも将来的には教職大学院の院生専用となることを想定して設計した。レイアウトのイメージ作成(図3)では、プラス株式会社ガラーヂ事業部のレイアウト作成サービスを利用した。



教育学研究科研究生図書
1:200 (A4)

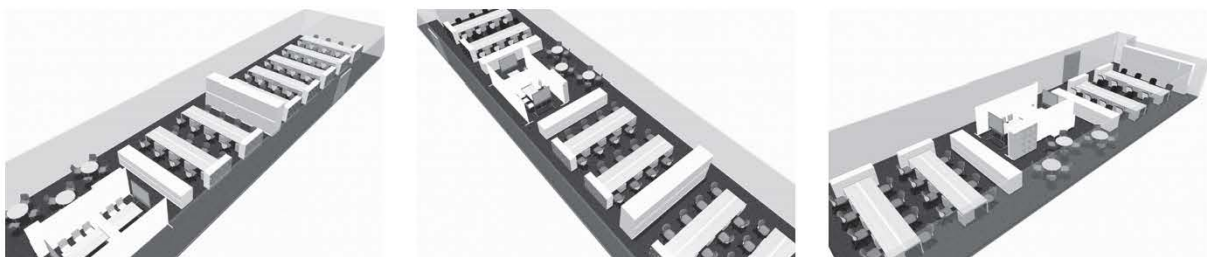
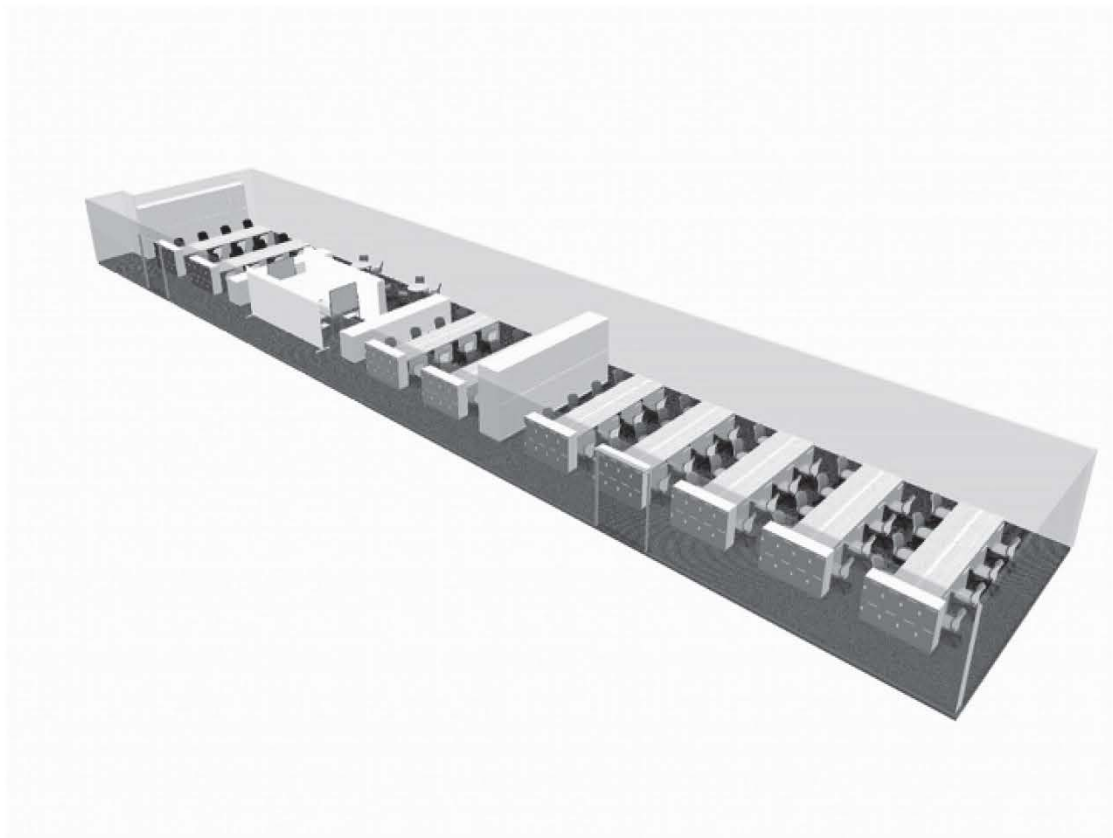


図3 プラス株式会社ガラージ事業部が作成した教育学研究科院生研究室のイメージ

レイアウト作成サービスでは、部屋全体の見取図と、想定している利用人数及び部屋に要求する機能を電子メールでやりとりして作成していただいた。

既存の什器も流用することで改修経費の縮減に努めながら、教職大学院のコンセプトの1つである「協働を通じた学びの場」となるよう、職員室を模した学修空間となるように院生研究室を整備した。教職大学院用として32人分、修士課程用として40人分の個別の研究・学修スペースを確保し、教職大学院側にはミーティングや談話ができるスペースと水回りスペースを用意した。教職大学院側にはネットワークプリンターとデジタル複合機を各1台設置している。

あわせて教職大学院の院生の教材研究・授業研究のために小学校、中学校、高等学校で現在使用されている全ての教科・科目の文部科学省検定済教科書を整備し、小学校、中学校については教師用指導書も整備した。



図4 改修前後の文総301の様子
上：改修前；中：改修直後；下：使用開始後

(2) 教職大学院専用教室の整備

専用教室は、実質二間続きで使用していた旧文総 305 と旧文総 306 及び旧文総 307 の 3 部屋を改修して1つの大教室（カンファレンスルーム）とし、旧ラウンジを改修して1つの小教室（リフレクシオンルーム）を整備した（図5）。カンファレンスルームは教職大学院関係者（大学院教育学研究科教職実践講座教員，教育学部附属教育実践総合センターに所属する沖縄県教育委員会との人事交流教員及び2学年分の院生）全員の約 60 人が一同に介することが可能な教室としての機能を前提に小規模，中規模のグループ演習にも対応できるように整備した。リフレクシオンルームは小規模の講義・演習空間として整備し，建物全体の強度を維持するため学生ラウンジ時代から整備されていた給湯室（5 m²）を撤去することなく内包した。

この2つの教室の間はアコーディオンカーテンで間仕切りされており，二間続きで1つの講義室として使用することで講演会等も開催できるように設計した（図6）。一方，アコーディオンカーテンでの間仕切りのため，遮音性に難があるため2部屋を独立して使用することが難しい。従って，時間割編成上同一授業時間帯に文総 305 と文総 306 にそれぞれ別の授業科目を配置し，2つの授業科目を同時に開講できないというデメリットもある。



図5 改修前後の文総 305，306 の様子

上：改修前（左：二間続きの状態の旧文総 305・旧文総 306，中：旧文総 307，右：旧ラウンジ）；下：改修後（左：文総 305（旧文総 305 側から），中：文総 305（旧文総 307 側から），右：文総 306）



図6 文総 305, 文総 306 で開催した講演会の様子

平成 28 年 10 月 21 日 名古屋大学名誉教授・神奈川大学特別招聘教授 安彦忠彦氏講演会の様子

(3) 教職大学院施設公開

平成 28 年 6 月 20 日には、学内関係者に対して教職大学院の施設紹介を兼ねた授業公開(学校教育・教員のあり方の課題と実践;担当 田中洋・下地敏洋)を行った。施設紹介・授業公開には学長以下 24 名が参加した。



図7 教育学研究科院生研究室の公開の様子

左：院生の学修スペースにて；中：電子黒板の機能紹介；右：教科書の整備状況紹介



図8 文総 305 で行われた授業公開の様子

上：授業開始時の教室の様子（左）と田中洋教授による授業の導入（コミュニティースクールに関する制度の説明）（右）；下：コミュニティースクールに勤務している受講院生の発表の様子（左）とグループワーク（演習）の様子（右）